

平成29年度 高江洲小学校学校経営方針

1 本校の教育目標

本校は、人間尊重の精神を基盤とし、「生きる力」を育むことを基本に据え、自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力、豊かな人間性、国際社会に貢献し得るたくましい実践力を身に付けた、心身ともに健康な児童を育成する。

そのため、児童の実態、地域の特性、保護者の願い、これまで築かれた教育、校風、伝統等を踏まえ、目指す児童像を学校教育目標として設定する。

たくましい実践力を身につけた 心身ともに豊かな子どもを育成する

- よく考え 進んで勉強する子
- 明るく 思いやりのある子
- ねばり強く 仕事をやりぬく子
- 心もからだも じょうぶな子

教育目標	指 標	要 素
よく考え進んで勉強する子	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話をしっかり聴く ・自分の考えを進んで発表する ・めあてをもち進んで学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・真理の追究 ・創造性 ・積極性 ・思考力 ・判断力 ・表現力
明るく思いやりのある子	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと仲良く助け合う ・相手の立場になって考える ・誰にも親切にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・明朗性 ・人間尊重 ・社会性 ・公德性
ねばり強く仕事をやりぬく子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分でする ・自ら進んで仕事をする ・何事も最後までやり遂げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・忍耐 ・責任 ・勤労 ・自主
心もからだもじょうぶな子	<ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全に気を配る ・進んで体をきたえる ・強い体と意志でやり遂げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康安全 ・体力 ・体位 ・気力

2 本校のめざす児童像・学校像・教師像

めざす児童像

- 夢や希望をもち自ら学ぶ子ども
- 「確かな学力」を身に付けた子ども
- 心豊かで思いやりのある子ども
- 心も体も健康で実践力のある子ども

めざす学校像

- “いきいき”とした“楽しい”学校
- “花いっぱい”“挨拶いっぱい”の学校
- “思いやり”いっぱいの学校
- 信頼され、開かれた学校

めざす教師像

- 厳しさと優しさをもち人間性豊かな教師
- 夢を育み夢を与える創造性豊かな教師
- 目標達成のため協力と努力をおしまない教師
- 保護者と手を携えて進む教師

3 本校の経営目標と経営理念

経営目標

＜ 全職員が心を一つに子どもを導く ＞

学校の組織力を向上させ、全職員の協働体制で、児童の健全育成及び学力向上を推進する。

学校経営の理念: 学校の存在意義は、子どもの豊かな自己実現を支援することにある。

次の2つの言葉を教育活動の根本に据え、学校教育目標の実現に努力する。

- ①「子どもというのは、身の程知らずに伸びたい人である」…どの子も伸ばしてやること
(個に応じた指導の工夫)
- ②「人間の才能は氷山のようなものである」…子どもは無限の可能性をもった存在であること
(自己肯定感の育成)

4 本校の経営方針

「たくましい実践力を身につけた心身ともに豊かな子どもを育成する」ために次のような学校づくりを目指して、カリキュラムマネジメントを推進する。

- (1) 児童が自信と意欲をもって学習に取り組む学校 → 「確かな学力」の定着
・「教えて考えさせる授業」を中心とした「わかる授業」の構築、「協同的な学習」の推進、説明的文章指導「高小スタイル」の継続実践、「実践9項目」の徹底、
- (2) 心身共に健康で明朗な児童、教師のいる学校 → 道徳教育、生徒指導、教育相談、
・道徳指導の充実、生徒指導部会の定例化、特別支援教育の充実
教育相談週間の実施、特別支援会議の充実、生徒指導徹底事項の実践充実
- (3) 教師が研修意欲に満ちている学校 → 教師の授業力の向上
・校内研修の充実、オープンクラス（相互参観）、設定授業の実施
- (4) 美しい学校、落ち着いた学校、夢のある学校 → 学習環境の整備・美化
・校舎・校庭の保清、花や植物を育てる活動の充実、学習意欲を高める掲示物の工夫
- (5) 教職員、保護者、地域が信頼で結ばれた学校 → 学校・家庭・地域の連携
・授業と連動した家庭学習の習慣化、生活リズムの形成、体験的な学習の充実
地域教育資源の活用連携推進（地域人材、地域施設設備）、コミュニティスクールの推進

5 本年度の重点事項

- (1) 算数科を中心に「教えて考えさせる授業」の指導方法を充実させる。また「協同的な学習」の推進で知的好奇心を高め、児童一人一人が「学び」を楽しみ理解を深める。学習規律「学びの構え」の徹底を図る。説明的文章指導の「高小スタイル」による共通実践で「読む力」「書く力」の育成を図る。
- (2) 「私たちの道徳」活用と体験的活動を生かした指導の工夫を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度などの道徳性を培い、道徳的実践力を育成する。
「特別の教科 道徳」の完全実施（H30年度）を視野に、移行措置を進める（H27～29年度）。
- (3) 設定授業（自らの公開授業）やオープンクラス（相互参観）を積極的に生かし、自己の実践目標を設定して、指導力の向上に努める。
- (4) 教室掲示や学年広場掲示を工夫し、児童の学習効果を向上させる。新校舎・体育館・運動場の完成にあたり、学習環境の整備・美化、効果的な活用に努める。
- (5) 学校評価等による保護者の声や意欲、指導力を最大限に引き出し、家庭と連携した家庭学習の深化・発展に取り組む。また、地域と連携して、学校支援ボランティアの拡充を図る。

6 本年度の取組事項

- (1) 学習指導の充実・改善（「教えて考えさせる授業」の充実と「協同的な学習」の推進）
 - ① 授業力を高め、「わかる授業・参加する授業」を実践するために校内研修を充実させる。

- ② 「教えて考えさせる授業」を共通実践し充実を図る。本校課題の「活用力」の向上を図る。
- ③ 形成的評価の徹底、*座席表の活用*により、個に応じた指導を充実させる。
- ④ 授業において*アクティブラーニング*を意識し「協同的な学習」を推進する。(ペア、グループ対話等)
- ⑤ 説明的文章の「読む力」・「書く力」の重点指導を継続し、「高江洲小スタイル」の指導法を共通実践する(単元を貫く言語活動)。
- ⑥ 全教育活動において、児童の表現力を高めるため、言語活動の充実を図る。
- ⑦ 補習指導を計画的に実施し、どの子にも「読み・書き・計算」の基礎学力を定着させる。
- ⑧ 授業と連動した家庭学習の習慣化を推進する。
- ⑨ 朝の読書の時間の充実を図る。(教師やボランティアによる計画的な読み聞かせの実施)
- ⑩ 発達段階に応じた本の選択など、個々の読書目標達成に向けた支援を行う。
- ⑪ *キャリア教育的視点による授業の実践*を行い、*現在の学びが将来へ繋がっている事を実感*させる。(地域教育資源の活用「*地域人材*」や「*地域施設設備*」、*目標や夢の設定*)

(2) 道徳教育の充実

- ① 生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底し、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度を育成する。
- ② 道徳の授業を完全実施し、地域教材の開発や活用など多様な授業展開に努める。
- ③ 「私たちの道徳」の活用や体験的活動を生かした指導の工夫を図り、道徳的実践力の育成を充実させる。(移行措置 H27～29)
- ④ 道徳の授業を公開したり、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解や相互の連携を図るよう配慮する。
- ⑤ H30 年度からの「*特別の教科 道徳*」完全実施に向け、*指導法(検定教科書の活用等)*や*指導計画*を推進する。

(3) 健康・体育・スポーツ活動の充実

- ① 安全指導に留意しつつ日々の体育の授業を充実させ、基礎的な体力の向上を図る。
- ② 健康保持増進の資質や能力を育成しながら、保健・安全及び「食」に関する指導を行う。
- ③ *日常的な運動*や体力の維持増進を工夫し、心身の健康保持を図る。
- ④ 家庭と連携した「てくてく登校」(徒歩登校)、一校一運動(縄跳び)の推進を図る。

(4) 特別活動の充実と福祉教育の推進

- ① 集団の一員として、なすことによって学ぶ活動を通して、自主的、実践的な態度を育成する。
- ② 四つの内容(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事)の密接な関連を全職員が理解し、6年間を見通した全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を作成し、児童の自主的、実践的な活動を効果的に指導する。
- ③ ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験活動等を実施する。
- ④ 全校合唱を導入し、歌うことを通して、児童の連帯感や心身の健康の実現に生かす。

(5) 総合的な学習の時間の充実

- ① 日常生活や社会に目を向け、児童が自ら課題を設定し、次の探求過程を進める。*ア課題の設定* *イ情報の収集* *ウ整理・分析* *エまとめ・表現*
- ② 地域の特色を生かしながら、食育・国際理解・情報・環境・平和・福祉等で学年相応の内容の充実を図る。
- ③ 教科学習で学んだ基礎基本を生かし、活用・探求活動が充実できるようにする。

(6) キャリア教育の充実

- ① キャリア教育で身につけさせたい4つの基礎的・汎用的能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を推進する。
- ② 自己肯定感を高め児童一人一人に夢と希望をもたせるとともに、「なりたい自分・なれる

自分」を意識した望ましい勤労観・職業観の育成に努める。

親や身近な大人の職場において仕事の内容や取り組む態度を学ぶ体験活動を実施する。

- ③ 幼・小・中の連携及び保護者・地域社会との連携を強化したキャリア教育を推進する。

(7) 平和・人権教育の充実

- ① 生命を尊重し、他人の立場を理解し、思いやりや寛容の精神を育成し、世界の平和を希求する心情を育てる。
- ② 月1回の「人権の日」(生活朝会)の取り組みを充実させ、人権を尊重する心を育み、一人一人のよさや可能性を伸ばす。
- ③ 「いじめ」や「児童虐待」は児童の人権に関わる重大な問題であり、教職員間の日常的な情報交換など、全校体制による未然防止及び早期発見・早期解決に努める。
- ④ 「人権教室」や「平和講話」等の人材活用を図り、人権や平和への意識向上を図る。

(8) 生徒指導・教育相談の充実

- ① 全職員による生徒指導・教育相談体制の確立と機能化を図る。
- ② 全児童を対象とした計画的・積極的な生徒指導・教育相談を実施する。
- ③ 基本的な生活習慣や望ましい生活態度の形成
- ア 「あいさつ・返事・後始末」の実践強化(うるま市共通実践項目)
- イ 高江洲小「学びのかまえ」「文房具の7つ道具」による学習規律の徹底指導。
- ウ 今年度の生徒指導徹底事項の共通実践。「そろえる」「言葉遣い」「あいさつ」
- エ 健康で安全な遊び方の指導を徹底し、危機回避能力の育成を図る。
- オ 「早寝・早起き・朝ごはん・そして家庭学習」を家庭と連携し推進する。
- ④ 児童との信頼関係を深め、自己肯定感を高める指導を実践する。
- ⑤ スクールカウンセラー等、関係機関と連携を図り、個に応じた支援体制を行う。

(9) 特別支援教育の充実

- ① 一人一人の児童の実態にあった教育課程の編成と適切な指導を行い、家庭と連携を取り共通理解のもと、児童がその障害に起因する種々の困難を克服していくための生き抜く力を培う。
- ② 全職員が障害をもつ児童に対する正しい理解と認識を深め、全児童が学校生活や交流学习を通して、思いやりと平等感で仲良く伸びる機会をつくりだすよう配慮する。
- ③ LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症等、発達障害に関する理解と適切な対応・支援に努める。
- ④ 定例の特別支援教育部会や支援会議の充実を図る。

(10) 国際理解教育の推進(ALTを活用して外国語活動を実践)

- ① 広い視野を持ち、異なる文化を持った人々と共に協調して生きていく資質や能力を育成する。
- ② コミュニケーションの手段としての外国語(英語)に慣れ親しませ、外国語(英語)を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験させるなどコミュニケーション能力の育成を図る。
- ③ 外国語活動は、5年生、6年生を対象とし、発達の段階に応じた歌やゲーム、簡単な挨拶やスキットなど、音声を中心とした体験的な活動等を工夫する。
- ④ H32年度からの学習指導要領完全実施に向け、3、4年生(外国語活動)、5、6年生(英語科)の指導方法や授業時数増を視野に入れて研修を深めておく。

(11) 情報教育の推進

- ① 児童がコンピュータやインターネットを活用し、情報化社会に主体的に対応できる「情報活用能力」の育成と情報モラルの指導を充実させる。
- ② 校内LAN等を利用し、教材や校務処理用データ等教育情報の共有化を図り、授業の改善や校務処理の効率化を推進する。
- ③ IT教育センター等の教育用コンテンツの有効活用を図る。
- ④ 情報モラル指導カリキュラムを作成し、発達の段階に応じて系統的、継続的に指導する。

(12) 環境教育の推進

- ① 地球規模の視野に立ち、身近な環境や環境問題に対して関心を持ち、人間と環境との関わりについて理解を深める取り組みを推進する。
- ② 「環境に親しむ活動」「環境のしくみを学ぶ活動」及び「環境を保全・創造する活動」の環境教育の3つの視点をふまえて全体計画を作成する。
- ③ 花と潤いのある教育環境作りに努め、豊かな心を育めるようにする。

(13) 保・幼・小・中の連携の充実

- ① 校区内保育園や幼稚園と各学年、及び学校行事を通して相互の交流を推進する。
- ② 高江洲中学校区学推ブロックにおいて連携を密に推進する。
- ③ 小一プログラムや中一ギャップなどに留意し、保幼小中連携を深める。

(14) 開かれた学校づくりの推進

- ① 家庭・地域と連携し、地域のニーズに応える学校づくりを推進する。
- ② 地域行事に積極的に参加することで、学校と地域の相互信頼を深める。
- ③ 保護者、学校関係者評価委員や評議員への説明責任を果たす。
- ④ 学校支援ボランティアや地域人材の積極的な活用を図り、「地域で子どもを育てる」実践を行う。

(15) その他（生命尊重、自己肯定感の向上）

- ① 性教育、誕生学の継続実践による自己肯定感の育成、自他の生命を尊重する精神・実践的態度の育成を推進する（各学年の発達段階に応じて、各教科等との関連を図り教育課程に位置付けて実践する。ゲストティーチャーの活用）。